

医療の最前線レポート

ニュースウィーク日本版

Newsweek®

抗癌剤から
在宅医療まで
進化を続ける
医療最前線

世界の 最新医療

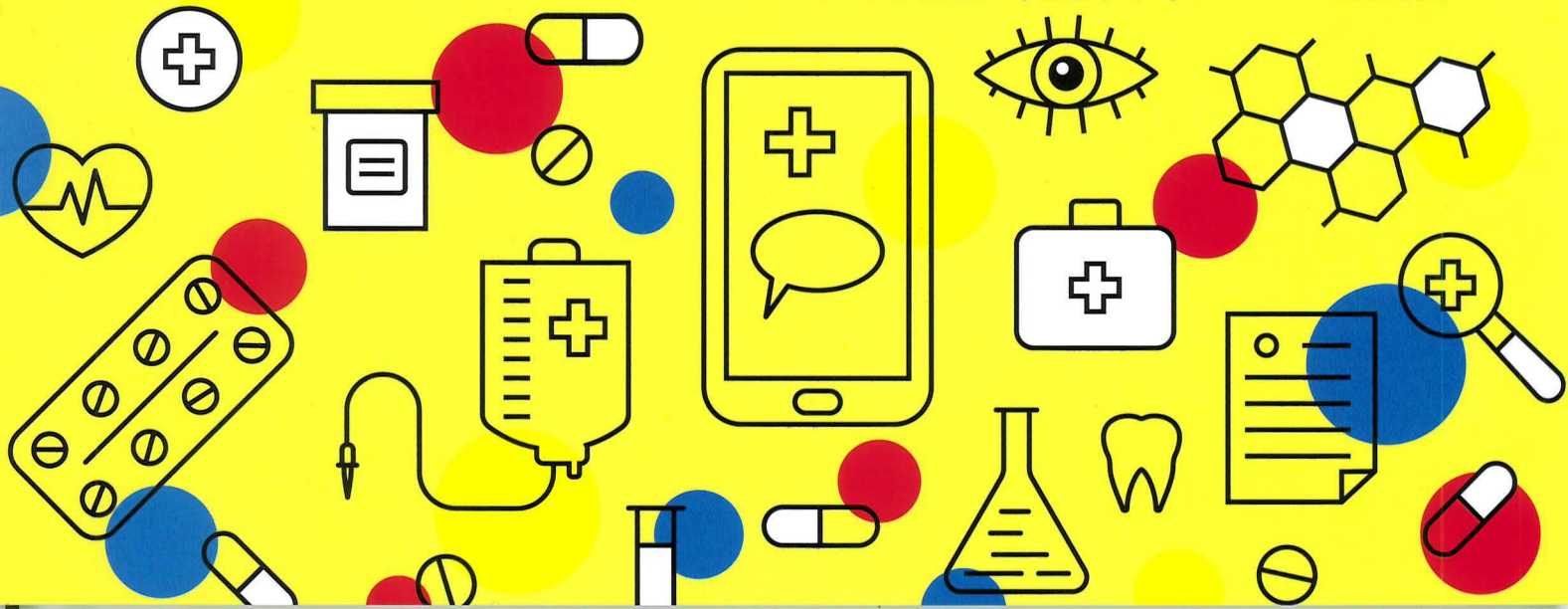


2026

トピックス 癌治療薬 | 歯周病と全身疾患
在宅医療 | 遺伝子治療 | 生殖医療

研究&医療技術 医療DX | 感染症
認知症 | 薬剤耐性 | AIセラピスト

予防&リハビリ フレイル予防運動 | 脳トレ
日本式速歩 | 脳寿命 | スーパー栄養素



従来は入院が必要なことが多い
インスリンポンプ療法にも対応

愛知県豊田市のJA愛知厚生連加茂病院（現JA愛知厚生連豊田厚生病院）で、内分泌・代謝内科部長を務めていた経歴を持つ加藤大也院長。在職中は、糖尿病の合併症が重度に進行してから来院し、足が壊死したり失明寸前に陥ったりする患者を多く診てきた。その経験から、初期段階で治療を介入し、合併症の発症や進行を予防したいという思いが募り、前職の病院からほど近い場所にてクリニックを開院した。

「風邪や腹痛も含め幅広い内科疾患を診ていますが、私の専門が内分泌・代謝なので、糖尿病や甲状腺疾患の患者さんが多く来院します。そのため糖尿病の治療には力を入れ、基幹病院と同等レベルの専門医療をチームで行い、患者さんに合わせたテーラーメイドの医療で伴走することを心掛けています」。

糖尿病のほとんどを占める2型糖尿病の治療は食事療法と運動療法が中心で、血糖コントロールが改善しない場合は薬物療法を併用する。そのため、管理栄養士や臨床検査技士、糖尿病看護認定看護師、日本糖尿病療養指導士といった専門スタッフが常駐し、チームで治療にあたるのが強みになっている。さらに高性能生化学分析装置で採血当日に検査結果を出し、その日から治療を始めることができるなど、先進の検査機器や設備も充実している。「クリニックでは珍しいインスリンポンプ療法にも対応しています。小型

基幹病院レベルのチーム医療で 糖尿病治療を地域で完結させる

神経障害や網膜症、腎症をはじめ、さまざまな合併症を引き起こす可能性のある糖尿病。疾患自体には初期症状がほとんどないため、合併症が進行してから受診する人が多い。そんな状況を回避するため、早期介入で合併症の予防を目指しているのが、たいや内科クリニックである。加藤大也院長に、診療方針や糖尿病治療について話を聞いた。



糖尿病の早期発見・早期介入を目指し、啓発活動の一環として開催する糖尿病教室。運動療法や生活習慣の工夫を分かりやすく伝えている

い臓がんなどが見つかり、基幹病院を紹介することも珍しくないという。

糖尿病の早期発見・早期介入を文化や風土として受け継ぐ地域に

高度な治療法があっても、経済負担が増え、誰もが利用できるわけではない。加藤院長が掲げるのは、一人ひとりの患者に寄り添った医療だ。経済事情や性格、仕事内容、生活様式は患者によって異なり、例えば安価な薬を処方したり、食生活が乱れないように精神面を支えたり、さまざまなサポートで治療を継続できるように努める。

またトヨタ自動車の城下町ゆえ、ブラジル出身の方をはじめとした外国人患者も多く、2名の通訳を雇うことで綿密な意思疎通を可能にしている。「医療の機能分化が進んだ今、基幹病院は救急医療やがん治療などの高度医療が中心になり、慢性疾患への対応が難しくなっています。クリニックがその役割を担うわけですが、2型糖尿病の患者さんは自分の生活習慣が悪いという自責の念に駆られ、受診率は高くない。結果として、早期発見

のデバイス（ポンプ）を身に着けてもらい、カニューレ（柔らかく細いチューブ）を通じて持続的に少量のインスリンを注入するもの。近年では、皮下装着したセンサーで血糖値を測るCGMと運動したSAP療法へ進化しています。今では、ほとんど機械任せで血糖管理ができるようになりました。こうした治療ができるのも熟達したスタッフが揃っているからだ。エコーや血液の検査で虫垂炎や卵巣がん、す



院長
加藤大也

1997年藤田保健衛生大学（現藤田医科大学）卒業、同大学大学院修了後、同大学内分泌・代謝内科入局。JA愛知厚生連加茂病院（現JA愛知厚生連豊田厚生病院）内分泌代謝科の医長と病棟部長を経て、2022年たいや内科クリニックを開院。主に糖尿病や甲状腺疾患の診療を行う。



たいや内科クリニック

愛知県豊田市逢妻町 2-18-4
050-3172-9573
https://taiya-naika.com/

- 診療時間：月曜・火曜・木曜・金曜 9:00～12:00/15:00～18:00 水曜・土曜 9:00～12:00
- 休診日：日曜・祝日
- 診療科目：糖尿病・脂質代謝内科、甲状腺疾患・一般内科

「このような活動を主に担っているのはスタッフです。能力を発揮し成長できるように、セミナーや講演会に登壇できる機会を提供し、気楽に休みを取得できるといった働きやすい環境を整えています。ホワイト財団によるホワイト企業認定も取得し、患者さんだけでなく、スタッフや地域の方々も含めて幸せになってほしいと思っています」。

今後は1型糖尿病患者の高齢化に伴い、訪問診療の必要性も感じている加藤院長。「人と人の繋がりを大切に、関わる人すべてに安心と幸せを届けること」という診療理念のもと、100年以上にわたって続くクリニックになるための挑戦を続けている。